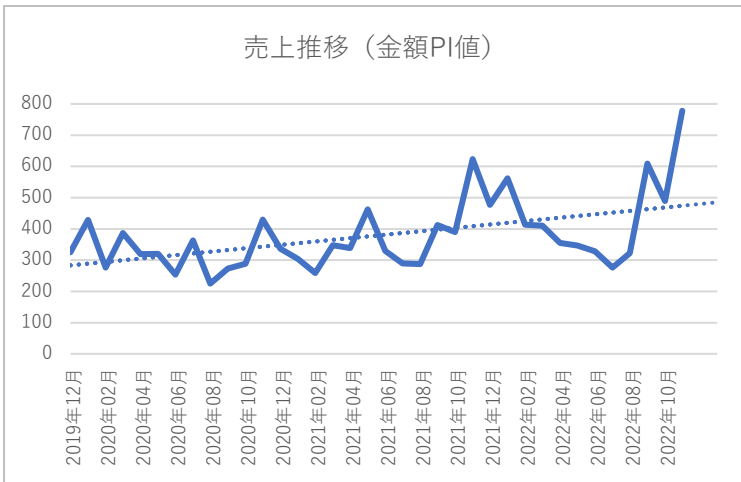


冬場に手軽に摂れる温かい食事というイメージする方も多いのではないだろうか。今回はカップスープ市場について、ID-POSデータから見る売上や味覚センサによる味分析データを組み合わせ、多角的に検討を行った。「味分析×購買データ」の考察により掴めるトレンド情報をぜひ体感頂きたいと考える。

【図1】 売上推移 (2019年12月~2022年11月 全国スーパーマーケットID-POS 金額PI 加工食品・スープ類・エスコック「スープはるさめ」シリーズ

出典：FOODATA



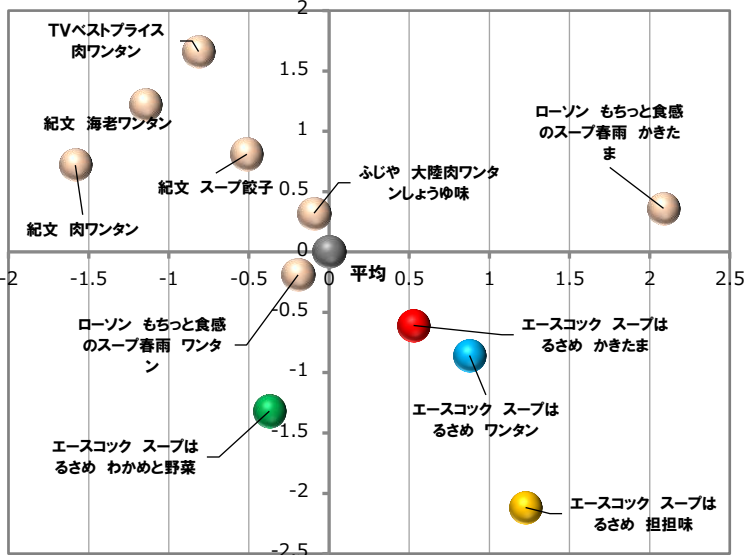
直近3年間のカップスープ市場全体の売上は横ばいであるが、その中でも春雨スープ系は上昇傾向にあり、【図1】に示したエスコック「スープはるさめ」シリーズの売上増加が著しい。温かいスープ類は1年の中でも冬場の方が売上高が上がる傾向にあり、直近2022年11月データでも上り調子となっている「スープはるさめ」シリーズを中心に、ワンタンや春雨などの食事系スープについて味いを調査した。

【図2】には今回調査対象としたカップスープ11商品のうま味と味の濃さのバランスを示した。ワンタンや餃子が入っているスープは比較的うま味が強い傾向があり、春雨スープは全体的に味の濃さが強めの味バランスであった。

【図3】にはエスコック「スープはるさめ」4商品の平均を基準とした味バランスを示した。「担担味」は酸味の強さを筆頭にインパクトの強い味わいであると考えられ、「かきたま」はうま味が強い味わいである。後を引くうま味の余韻が抑えめなのが「ワンタン」で、うま味の余韻の印象が強いのが「わかめと野菜」である。時世としてランチ代削減やコロナ禍の行動制限緩和により発生する外出先・仕事先での食事需要といった喫食ニーズが考えられ、バラエティ豊かな味わいで消費者を飽きさせないのも人気の理由かもしれない。

2022-2023シーズンの冬も寒さが厳しい見通しのためスープで体の内から暖を取るのはいかがだろうか。

【図2】 カップスープ11商品のうま味、味の濃さのバランス



【図3】 エスコック「スープはるさめ」4商品の味バランス

